園芸研究家
成松 次郎

園芸ノート

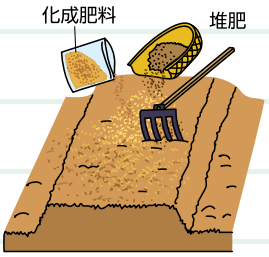
カブ（アブラナ科アブラナ属）

生育適温は15～20度と冷涼な気候に適し、暑さと乾燥に弱いが、寒さには強いという特徴があります。春まき（3～4月）と秋まき（9～10月）が一般的な栽培時期です。

［品種］ 大きさ、形、色（白、赤）がさまざまですが、小カブ品種では、豊円形で耐病性・耐暑性のある「CRもちばな」（タキイ種苗）、低温期に向く扁（へん）円球で白さび病にも強い「雪牡丹」（武蔵野種苗園）、中大カブ取りもできる「スワン」（タキイ種苗）などがあります。紅カブや上半身が赤く細長い日野菜など地方品種もお薦めです。

［畑の準備］ 種まき1～2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gをよく混ぜておきます。次に、化成肥料（NPK各成分で10％）150gと堆肥2kgを全面に散布し、よく耕しておきます（**図1**）。

図1　畑の準備



［種まき］ 幅100～120cmの栽培床を作り、深さ1cm程度のまき溝を20cm間隔で4条作ります。溝に1～2cm間隔で種をまき、薄く土を掛けます（**図2**）。

［間引き］ 発芽し、子葉がそろった時点で、まき過ぎて密になっている部分を間引きます。その後も、込み合ってきたら、生育の悪い株を間引きます。最終的な株間は小カブで10～15cm、中大カブで20cm程度にします（**図3**）。

［追肥・土寄せ］ 間引き後は株元へ土寄せして、株のぐらつきを防ぎます。中大カブでは、最後の間引き後に1平方m当たり化成肥料30gを株元に与え、土寄せします。

［病害虫防除］ アブラムシには、マラソン乳剤など、アオムシ、コナガにはゼンターリ顆粒（かりゅう）水和剤（BT剤）などで防除します。なお、栽培床に寒冷しゃをトンネル状に掛けたり、不織布のべた掛けをすれば、害虫の侵入を防ぎ、風雨から幼苗が守られます。

［収穫］ 小カブは直径が5cm程度、中大カブは10～15cmが適期で、早く育った株から収穫します。遅くまで置いておくと肥大が進み、す入りや裂根することがあります。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

図2　種まき

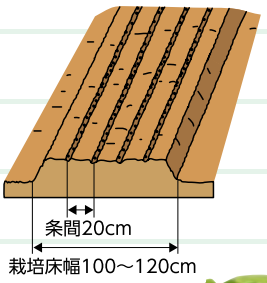
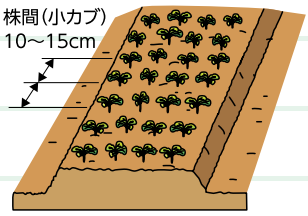
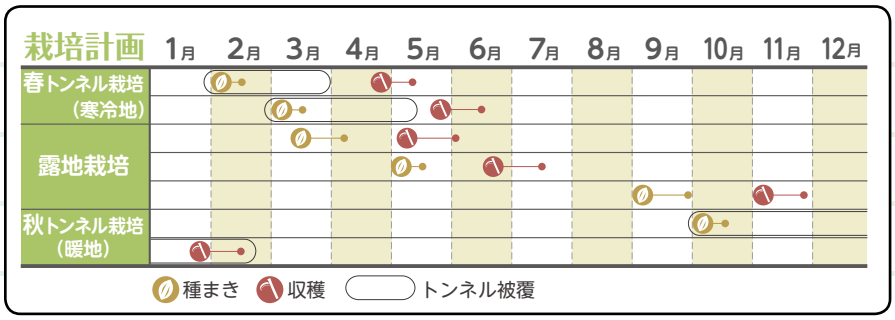


図3　間引き





JAグリーン津店が教える！ カブ栽培のポイント！

JAグリーン津店
グリーンアドバイザー認定
城 博一

●追肥、中耕、土寄せ

2回目、3回目の間引きのあとは、追肥と中耕、土寄せを行います。まず追肥として化成肥料をカブの根に直接当たらないように少し離してまきます。小カブは追肥しなくても大丈夫ですが、カブは多肥を好むので、中カブ、大カブは必ず与えるようにしましょう。次に、中耕することで除草し、根に酸素を供給して成長を促します。最後に株元に土寄せして作業終了です。土寄せには、間引き後の株が倒れないように固定する役割と、カブの肌を日焼けなどから守りきれいにする意味があるのでしっかり行いましょう。土寄せする土は細かいほうが肌のきれいなカブになります。

●収穫時期と方法

カブの収穫時期は、5～6月と10～12月頃です。ただし、小カブなどは種まきから40～50日ほどで収穫できるので、胚軸の直径で判断します。

カブは乾燥したあと、急激に水を吸収すると割れやすくなります。ひどく、乾燥させないように、雨がしばらく降らないときは水をあげて、常に畑に水分を保つようにしましょう。

●細いカブしかできない

カブは、土壌水分が豊富なときにはまるまるとふくらんだ形になります。細くなる原因のほとんどが水分不足です。水やりをしっかりとしましょう。また、肥料不足でも細長くなることがあります。肥料が足りているかどうかは、葉っぱの色が薄くなっていないかを気をつけて観察してください。

双子座 5.21～6.21
【全体運】友人とのコミュニケーションでライフスタイルが活性化。「初耳」のことにはトライして。面白い発見があるはず
【健康運】家族と一緒に盛り上がれるスポーツが◎　【幸運を呼ぶ食べ物】カボチャ